

ヤスミン・ラリ

パキスタン / 建築 Yasmine LARI

市民フォーラム

災害から創造的復興へ～素足の被災者を蘇らせたラリの草の根建築デザイン～

■開催日/2016年9月18日(日) 14:00～16:00

■会場/アクロス福岡地下2F イベントホール

■参加者/200人

〈第1部 基調講演〉

現地の自然素材と土着的な手法で 援助への依存から自立の文化へ



私が会長を務めるパキスタン・ヘリテージ財団は、文化遺産の管理をするだけでなく人道支援活動も行っています。パキスタンには多くの古代遺産があり、それは青銅器時代、インダス文明の時代、ガンダーラの仏教文化といった時代にさかのぼります。そうした時代の建築物は強く強靱性に富むものであり、それらの遺産を保存し、さらに、遺産に関する知識を広げていく様々な活動を行っています。

また、8万人が犠牲になり、40万の家族が家を失った、2005年パキスタン大地震をきっかけに、私は、“素足の建築家”として人道支援活動にも取り組むようになりました。2010年以降も、パキスタンでは毎年のように洪水や風水害、地震などが発生し、常に留意しておかなければならない状況です。さらに、パキスタンは発展途上の国であり、多くの人が貧困状態にある中で、国際社会からの援助への依存が増しており、被災者の自尊心がなくなり、自立心が欠如している状態に陥っています。これは本当に深刻かつ重大な問題です。

その対策として、私は、シェルターを被災者と協力して設計し、現地で調達可能な粘土・石灰・竹などの自然素材を使用し、土着的な手法で造る“草の根建築”を推進しています。このシェルターは費用がほとんどかからず、被災者自身で建てることができるため、援助への依存の体質を自立の文化へ変えることができます。また、粘土・石灰・竹といった自然素材を用いているため、二酸化炭素排出量が非常に少なく、地球環境にも優しいものです。

私が考えた自然災害後の復興のための原則があります。まずは、文化遺産と伝統を利用し、誇りと自信を育てること。次に、持続可能な材料を使用し、環境悪化を防ぐということ。さらに、現地の材料と技術を使用し、素早く届けるということ。最後に、災害リスク軽減法を考案・具体化し、次の災害に耐えるということです。

私が考えた自然災害後の復興のための原則があります。まずは、文化遺産と伝統を利用し、誇りと自信を育てること。次に、持続可能な材料を使用し、環境悪化を防ぐということ。さらに、現地の材料と技術を使用し、素早く届けるということ。最後に、災害リスク軽減法を考案・具体化し、次の災害に耐えるということです。

パキスタンでは多くの人が貧困状態にあります。災害時には、特に子どもたちや女性が被害を受けます。私は、子どもや女性のためのエンパワーメントにも力を入れており、住宅だけでなく、衛生的に家事ができる無煙かまどのキッチンやエコトイレをわずかな費用で造る技術なども教えています。

私はこれからも被災者に寄り添い、被災者の自立に役立つような活動を続けていきたいと思えます。



〈第2部 パネルディスカッション〉



●対談者
森 まゆみ
(作家)



●対談者
深澤 良信
(国連ハビタット福岡
本部長)



●コーディネーター
藤原 恵洋
(九州大学大学院
芸術工学研究院教授)

災害への備えや復興の在り方を あらためて問い直すきっかけに

基調講演を受けて藤原恵洋氏は、「被災者に寄り添い、主体性や自立性を奮い立たせるラリ氏のシェルターは、日本の仮設住宅の在り方とはずいぶん違う」と感想を述べました。作家の森まゆみ氏は、東日本大震災後の自身の被災地での活動内容を紹介し、日本の復興の在り方に疑問を投げ掛ける一方で、ラリ氏が設計したシェルターを「環境問題までを見据えた私たちの行くべき未来」と高く評価しました。深澤良信氏は、国内外で数々の災害復興支援に関わってきた経験や、国連ハビタットの活動内容を紹介し、「復興に大切なのは被災者自身が元気になること。コミュニティの力が高まれば、支援事業が終わっても次に進める」と、ラリ氏の考えに共鳴しました。それらを受けてラリ氏は、「被災者の自助や心の復興は重要な観点」「救済だけでなく、災害前の備えを世界中でやるべき」などと力説しました。

フォーラムの前日に熊本地震の被災地に赴いた様子も紹介され、ラリ氏は「あれだけの大地震にもかかわらず躯体自体はしっかり残っていた。竹の土台できている建築物は本当に素晴らしい」と感想を述べました。会場からの「パキスタンと日本が一緒になって取り組めることは？」という質問に対しては、「伝統的な建築を生かしながら、それをさらに強くする方法を考えることが重要だ」と回答。最後に藤原氏が「私たちが協同してやれることはたくさんある。今度は実際の現場で一緒にしましょう」と述べて市民フォーラムを締めくくりました。

学校訪問

■実施日/9月15日(木) 11:00～12:00

■会場/福岡市立福岡女子高等学校

ラリ氏は、創立90年以上の福岡女子高等学校を訪れて、「素敵な景色があつて素晴らしい校舎だ」と称した後、パキスタンの文化遺産の写真を見せながら母国について説明しました。

その後、学生時代の苦労話を披露しながら自らが手がけた建築物を紹介。富裕層向けの大規模なビルから一転、母国での大震災の経験を経て、現在は貧困層向けの家などを作っていると話しました。災害から身を守るための建築物と、女性の自立や地位向上という二つの課題解決に同時に取り組むラリ氏の熱意と行動力は、生徒たちの心に響いたようでした。

学生から「どんな夢を持っていますか」と問われたラリ氏は「たくさんの夢がある」と笑って答え、「諦めずに一生懸命やれば夢は叶う」と励ました。またパキスタンで活躍する女性たちを例に挙げながら、「女性は家事、育児、仕事という3つの役目を持っているが、その中でより多くのことを成し遂げられるように努力すべき。自信をもって一番高い山に登ってほしい」と、メッセージを送りました。

